



聖書には、さまざまな形の家族が登場します。そこには愛情と信頼があり、同時に嫉妬や憎しみがあります。この家族である、わたしたちの人と偽善者であり、そして神

神の家族

司祭 パウロ 濱山公一

ことでもあります。

カインとアベル

(創世記4章)

聖書で最初に登場する兄弟は、アダムとエバの子どもたちです。兄のカインは農耕を行い、弟のアベルは牧畜を行いました。神は、カインのアベルの献げ物を選ばれました。聖書には、兄カインの献げ物には特別な表現は記されてなく、土の実りを持って来たとあります。しかし、弟アベルは羊の群れの中の肥えた初子を献げます。兄は義務として、しかたなく義理で献げ

ささげ物とたまもの

神のおとずれ

2010年
3月号

発行所	神戸教区事務所
TEL	078(351)5469
FAX	078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/	
発行者	我秀一
司祭	芳我秀一
印刷所	文明堂印刷所

たようにも感じられます。しかし、弟は自己犠牲と感謝を献げます。

兄は自分の努力を認めてもらいたかったのではないでしようか。さらに兄は、自分の非を認めることなく、ただ弟に嫉妬して、殺害してしまいます。

マルタとマリア

(ルカ10章38節)

神への献げ物は、量や質ではなく、神への感謝の心と悔い改める心です。

まじめな兄と放蕩息子

(ルカ15章11節)

働き者で活発な姉のマルタ、物静かな妹マリアという姉妹の家に、主イエスが訪れます。主を迎えたのは姉です。当然、姉のマルタは、招待した客をもてなすためには立ち働きます。主イエスに、立ち働きます。主イエスが我が家にお越しくださいたのですから、できる限りのことをしてみたいと思ったのです。それは、喜びと感謝の思いから献げた奉仕なのです。

しかし、手伝いもしないで、主イエスの話を聞いているだけの妹マリアに対するねたみの心が生まれてしまいます。姉マルタは、こんなに頑張つたのだから、自分は褒めてもうえ、妹は叱られるだろうと思つたのです。しかし、イエスの答えは、まったく逆でしょ。されど、妹マルタの感謝もまた、何に対してもうか。さらに兄は、自分の非を認めることなく、ただ弟に嫉妬して、殺害してしまいます。

そもそも、姉マルタの感謝とは、何に対してもうか。主イエスが、我が家に来ててくれた、名譽なことである、ということでしょうか。妹のマルタは、主イエスの話を耳にして、キリストの福音を聴いた喜びに満たされ、心から感謝したことでしょう。

兄はそれまで、仕事に対する充実感や、父への感謝の気持ちを感じていた事でしょう。しかし、自由奔放な弟への嫉妬と、ある意味で憧れも感じていたかも知れません。それがついに、弟の家出騒ぎをきっかけに逆転してしまいます。自分は父から十分な愛情を受けていることに気付かなかつたのです。

わたしたちは、神様から多くの恵みをいただいています。自分の努力だけではなく、神からの賜物によって今の自分があるのです。そのことを忘れた時に、嫉妬や反抗心が現われます。しかしその心さえも、悔い改めへと導く恵みなのです。与えられた恵みに対する感謝は、義務ではなく、また人に見せるものでなく、自然に溢れ出すものです。

それは、まじめに働く兄には、納得できないことです。そこで、今度は兄が父に反抗します。それまで一度も言いつけに背いたことのなかつた兄が、初めて父に背いたのです。

兄はそれまで、仕事に対する充実感や、父への感謝の気持ちを感じていた事でしょう。しかし、自由奔放な弟への嫉妬と、ある意味で憧れも感じていたかも知れません。それがついに、弟の家出騒ぎをきっかけに逆転してしまいます。自分は父から十分な愛情を受けていることに気付かなかつたのです。

わたしたちは、神様から多くの恵みをいただいています。自分の努力だけではなく、神からの賜物によって今の自分があるのです。そのことを忘れた時に、嫉妬や反抗心が現われます。しかしその心さえも、悔い改めへと導く恵みなのです。与えられた恵みに対する感謝は、義務ではなく、また人に見せるものでなく、自然に溢れ出すものです。

(徳島インマヌエル教会牧師、徳島聖テモテ教会管理牧師)



震災記念礼拝で説教される中村主教

1月17日に、阪神淡路大震災の記念の礼拝を守ってきました。今年は15年目の節目の年に当たりますが、この15年、聖ヨハネ教会のメンバーのそれぞれが、どんな体験をし、どのように歩んできたか振り返りました。心のうちにある思いを反映した礼拝にしたいものだと考えていました。

そんなある日、『原爆の図』や『沖縄戦の図』を描いた丸木夫妻の作品を収録した写真集を眺めていた時に、聖ヨハネ教会の信徒の思いを絵で現

1月17日に、阪神淡路大震災の記念の礼拝を守ってきました。今年は15年目の節目の年に当たりますが、この15年、聖ヨハネ教会のメンバーのそれぞれが、どんな体験をし、どのように歩んできたか振り返りました。心のうちにある思いを反映した礼拝にしたいものだと考えていました。

15年目の 節目にあたり

司祭 ヨハネ 角 澄 克 己

すことができないかと、考えつきました。早速、教会委員会に諮り、了承を取り付け、作業にかかりました。

